

今も残る渋沢栄一ゆかりの建物

晩香廬

晩香廬は、渋沢栄一が77歳（喜寿）を迎えた時に清水組（現・清水建設株式会社）から贈呈された洋風茶屋で、内外の賓客を迎えるレセプション・ルームとして使用されました。

大正6（1917）年の竣工で、丈夫な栗材を用いて丹念に作られ、暖炉・薪入れ・火鉢などの調度品、机・椅子などの家具にも設計者の細やかな心遣いが見られます。

丁寧に繊細な仕事で体现された晩香廬には、同社を常に見守り続けてくれた栄一への言葉では言い表せないほどの感謝と尊敬の念が溢れています。



青淵文庫

せいえんぶんこ
青淵文庫は、大正14（1925）年に竜門社（現在の公益財団法人渋沢栄一記念財団）が、渋沢栄一の傘寿（80歳）と子爵に昇格したお祝いを兼ねて寄贈した煉瓦及びコンクリート造の建物です。完成目前の大正12（1923）年、関東大震災のため工事は一時中断し、震災の経験を活かして再工事が行われました。収蔵する予定であった「論語」をはじめ多くの書籍や資料などが震災で焼失したため、竣工後は主に接客の場として使用されました。

渋沢家の家紋「丸に違い柏」に因んで柏の葉をデザインしたステンドグラスやタイルが非常に美しい洋館です。

